

歯科衛生部門の紹介

診療支援部 歯科衛生部門 後藤 早苗

はじめに

こんにちは。平成29年12月1日付で歯科衛生士長を拝命いたしました後藤早苗と申します。歯学部ニュースには9年前にも登場させていただきましたが、その当時、15名だった歯科衛生士も26名に増え、少しずつ歯科衛生士を取り巻く状況も変わりましたので、改めて診療支援部 歯科衛生部門の業務内容や取り組みについて紹介させていただきます。

診療支援部とは

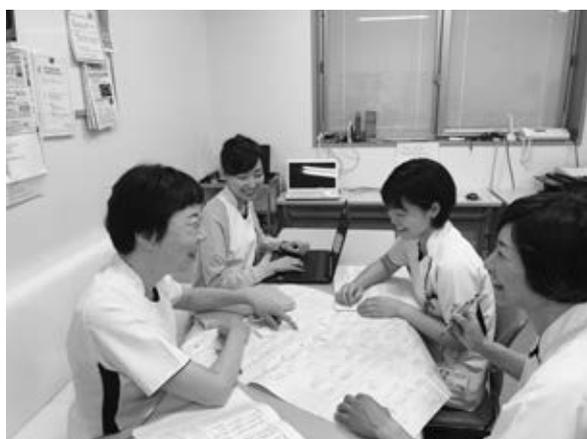
放射線部門・臨床検査部門・リハビリ部門・臨床工学部門・歯科技工部門・歯科衛生部門の6部門で構成されており、チーム医療の中で専門的知識と確かな技術を提供することを使命としています。他職種との相互理解と連携を図るため定期的に広報誌の発行や研修会を開催している他、今年度からは診療支援部としての共通した能力評価・開発、新人教育プログラムの策定を行っています。歯科衛生部門では昨年度からWGを立ち上げ、歯科衛生士に特化したキャリア開発ラダーの

作成に取り組んでいます。

歯科衛生士の業務

歯科衛生士は歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図る（歯科衛生士法第1条）ことを目的としています。患者さんの全身状態を把握し、ライフステージ（小児・成人・高齢者）やニーズを考慮した歯科保健指導、予防処置、診療補助を診療科の専門性を踏まえ実施しています。近年、口の健康と全身の健康状態との関連が注目されるようになり、口腔ケアの重要性が認識され、歯科衛生士への期待がさらに高まっています。歯科外来での業務だけでなく、病棟往診による入院患者さんへの口腔ケア介入なども数多く行っており、大病院の歯科衛生士として高度な専門性が求められています。エビデンスに基づいた知識と確かな技術をもって、チーム医療の一員として期待に応えられる歯科衛生士であるために、部門内で研修会を企画し、研鑽を積んでいます。

他にも、病院のアメニティーモール内で定期的に行われている糖尿病教室や口唇口蓋裂療育サ



WGメンバー



療育サポートミーティングの様子

ポートミーティングにおいて、歯科衛生士の立場から保健指導を行っています。

チーム医療

歯科外来には有病者や介助が必要な患者さんが毎日多く受診されますので、必要な情報を看護師、歯科医師と共有し、安全で安心な歯科医療を提供できるよう配慮しています。また、歯科外来では定期的にカンファレンスが開催され、多職種がチームとなり患者さん1人に対して様々な立場から情報をアセスメントし、よりよい歯科保健医療の提供や支援ができるよう活発な意見交換が行われています。



外来カンファレンス

おわりに

4月から高野衛生士、近藤衛生士が主任となり、歯科衛生部門は新たな体制でのスタートとなりました。人材育成、能力評価、認定取得、臨床研究、教育への取り組みなど課題は多くありますが、目標を定めキャリアアップを支援し、組織として成長したいと考えています。これからも一致団結して皆様の期待に沿えるよう努力をして参ります。田代看護師長はじめ看護師の皆さま、先生方にはご指導いただいております、この場をお借りしてお礼を申し上げます。今後も歯科衛生部門を何卒よろしくお願い致します。

